

北極域研究推進プロジェクト(ArCS)公開行事開催報告書

公開行事名称	(英文) Russia-Japan Workshop on Arctic Research (和文) 日露北極研究ワークショップ 公開行事 HP アドレス : http://www.nipr.ac.jp/aerc/topics20171227.html
公開行事種別	<input type="checkbox"/> シンポジウム <input type="checkbox"/> 講演会 <input type="checkbox"/> セミナー <input checked="" type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> その他 ()
開催日程	平成 30 年 1 月 15 日 (月)
開催場所	情報・システム研究機構 国立極地研究所 国名 : 日本
開催主体	・国立極地研究所 (NIPR) ・ArCS 国際連携拠点整備メニュー ・ArCS 国際共同研究推進メニュー・テーマ 8
参加対象者	・ロシア研究者・担当者 (ロシア北極南極研究所 (AARI)) ・国内研究者・担当者 (国立極地研究所、海洋研究開発機構、東京大学など)
参加者数	約 30 名
開催目的	北極海ロシア沿岸域は、北極域の環境変化の把握、予報・予測のための観測点として重要であるばかりでなく、海氷の減少に伴い利用が活発化している北極海航路を航行する船舶のための情報源としても観測の充実が求められる。この地域での観測を強化するため、ロシア北極南極研究所 (AARI) を中心とするロシア研究者・担当者と国内の関係者を集め、検討を行うワークショップを開催する。具体的には、ケープ・バラノバ基地における観測をはじめとする今後の共同観測計画および、その実施に関する課題と対応策を検討することを目的とする。
開催概要	昨年、NIPR と AARI との間で共同研究の合意書が締結され、10 月よりバラノバ基地での ArCS の一環としての共同観測が始まった。これを機に、AARI 新所長以下 5 名を招聘し、日露における北極研究についてのワークショップを開催、最近の北極研究の状況を紹介、共同研究の詳細打ち合わせを行った。 まず日露双方における北極研究の現況やバラノバ基地での共同観測の紹介を行い、その内容を踏まえて具体的な共同研究の打ち合わせを行った。2018 年の観測を実施するにあたっての諸問題を協議し、さらに将来観測の提案等が行われた。
成果	共同研究・観測を行うにあたってのデータの問題、ゾンデ観測実施に際しての諸問題を議論し、今後の方策を確認した。さらに今後開始する観測の提案が行われ、今後の対応方針、必要な Agreement の改訂等を定める事ができた。 北極研究におけるロシアの役割や観測点の少ない北極海での観測の重要性を鑑みて、AARI 所長を含め直接顔を合わせて議論できたことは貴重で、今後の共同研究の推進にこの WS は極めて有効であったと考える。
その他参考となる事項	将来的にも共同研究・観測を継続していくためには、このような会合が必要であるとの認識を共有し、今後定期的に開催することとした。また、バラノバ基地で観測を実施している他国、他グループとも一同に会しての WS を計画することとなった。